

# **山田町織笠地区民生委員児童委員協議会**

(平成 25 年 12 月 13 日掲載)

## **(1) はじめに ～被災状況と現在の様子～**

織笠地区は山田町の中心部南側に位置し、ホタテや牡蠣の養殖いかだが数多く存在し、河口部分の海岸沿いでは潮干狩りや鮭のつかみ取りが行なわれるなど、海との関わりが多い地区でした。一方、山間部は山菜や菌類が豊富で猛禽類が生息するなど自然豊かな地区でもあります。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の津波により、海岸沿いは地盤が下がり、潮干狩りが行なわれていた砂浜は壊滅的な被害を受けました。また、鮭の遡上も当分見込めない環境となるなど自然環境は一変してしまいました。

当地区の委員は 13 名ですが、今回の震災で 2 名の委員が残念ながら犠牲になりました。現在はそのままの定数で活動を行なっていますが、当地区委員だけの活動は負担が大きくなっており、隣地区の民生委員の応援を受けながらの活動となっています。

## **(2) 現状紹介**

このような状況のなか、山間部は津波被害を免れたことから大所帯の仮設住宅が町内で最初に建設されるとともに、山間部への仮設住宅建設が進むことで、町内で最も仮設住宅戸数が多い地区となっています。さらに、当地区内の高台へ集団移転する計画や、被災した病院や消防署を移転するための計画が進んでいます。

津波により公園をはじめとした子どもたちの遊び場がなくなってしまい、外でのびのびと遊べる環境の確保に苦勞しています。がれき撤去が進み、更地は数多く存在しますが、津波浸水区域は安心して遊べる場所とは程遠く、子どもたちは屋内での遊びが主となっているように見受けられます。

地区の高齢者を対象として、「お座敷広場」と称するサロン活動を定期的で開催して介護予防運動を行なっており、今年度の参加者は延べ人数にして 100 名程となります。

狭い仮設住宅生活が長期化するにつれて、主に下肢の機能低下が顕著な方が増えてきているように感じられます。「お座敷広場」をはじめとした各種サロンやイベント等への参加の声掛けを工夫するなど、外出の機会を多く設けるよう心掛けた声かけを行なっています。

社会福祉協議会の生活支援相談員による訪問活動が開始されるようになってからは、毎月の定例会をはじめとして定期的に情報共有を行ないながら、各世帯に対して厚みを増した支援が行なっているものと考えています。

## **(3) おわりに ～全国の委員へのメッセージ～**

仮設住宅入居期間が延長されたことに伴い、前述の下肢筋力低下の懸念や、こころに関する問題、入居者同士の騒音をはじめとしたトラブル等、多種多様な対応困難事例が生じています。また、民生委員自身も高齢化が進んでおり、次世代の担い手がなかなか見つからないなどの問題もありますが、引き続き行政機関や社会福祉協議会等と連携を図りながら対応していく所存です。震災以降、有形無形の支援を全国の皆さんから頂戴しており、この場を借りて改めてお礼申しあげるとともに、微力ながら復興の一助となるよう尽力していきたいと考えていますので、引き続きご支援のほどお願いいたします。